

岡山県感染症週報 2019年 第14週 (4月1日～4月7日)

岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です

◆2019年 第14週 (4/1～4/7) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第12週	5類感染症	百日咳	1名 (20代 女)
第13週	2類感染症	結核	1名 (40代 女)
	4類感染症	レジオネラ症	1名 (50代 男)
	5類感染症	百日咳	2名 (中学生 男 1名・女 1名)
第14週	2類感染症	結核	2名 (40代 男 1名、60代 男 1名)
	5類感染症	百日咳	8名 (乳児 男 1名、幼児 女 2名、小学生 男 1名、 中学生 男 2名、20代 女 1名、40代 女 1名)

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

○インフルエンザは、県全体で 79 名 (定点あたり 1.31 → 0.94 人) の報告があり、前週から減少しました。

○A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で 78 名 (定点あたり 1.46 → 1.44 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。

1. **風しん**は、2019年 第14週までに3名の報告がありました。なお、2018年の累計報告数は29名でした。風しんは、妊婦がり患すると、出生児に先天性風しん症候群 (CRS) を発症することがあり、注意が必要です。また成人で発症した場合、小児より重症化することがあります。岡山県内の発生状況など詳しくは「[今週の注目感染症](#)」をご覧ください。
2. **百日咳**は、2019年 第14週までに68名の報告がありました (2018年の同時期：45名)。年代別では小学生 (53%)、0～6歳の乳幼児 (21%) が多く報告されています。地域別では、倉敷市 (41%)、備中地域 (24%)、岡山市 (22%) の順に多くなっています。百日咳は、ワクチン未接種の乳幼児がり患すると無呼吸発作などを起こすことがあり、重篤化しやすく注意が必要です。2018年の百日咳サーベイランスから、乳幼児の感染源としては兄弟姉妹が最も多いことが分かっています。予防法は、予防接種とともに、感染者との接触を避けること、流行時のうがいや手洗い、手指の消毒などです。また、感染時は、軽症でも菌の排出があるため『[咳エチケット](#)』を心がけ、感染拡大防止に努めましょう。
3. **インフルエンザ**は、県全体で79名 (定点あたり1.31 → 0.94人) の報告があり、前週から減少しました。岡山県は引き続き『[インフルエンザ注意報](#)』を発令し、広く注意を呼びかけています。地域別では、備北地域 (1.67人)、倉敷市 (1.63人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など詳しくは「[インフルエンザ週報](#)」および岡山県感染症情報センターホームページ『[2018/2019年シーズン インフルエンザ情報「インフルエンザ注意報」発令中!](#)』をご覧ください。
4. **A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**は、県全体で78名 (定点あたり1.46 → 1.44人) の報告があり、前週とほぼ同数でしたが、過去10年間の同時期と比較して多くなっています。地域別では、倉敷市 (2.55人)、備北地域および美作地域 (各2.00人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。この感染症は、就学前から学童期にかけての小児に多く、保育園や幼稚園、小学校などで集団感染することもあります。患者との濃厚接触を避け、手洗い・うがいを行うなど感染予防に努めましょう。

2019年4月27日から5月6日までの10連休における 医療提供体制について

以下の岡山県医療推進課のホームページで公開されていますので、ご確認ください。

[2019年4月27日から5月6日までの10連休における
医療提供体制に関する情報について \(岡山県医療推進課\)](#)

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↓	★★	RSウイルス感染症	↓	★
咽頭結膜熱	↓	★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	★★★★
感染性胃腸炎	→	★★	水痘	↓	★
手足口病	↓	★	伝染性紅斑	→	★
突発性発疹	↓	★	ヘルパンギーナ	→	★
流行性耳下腺炎	→	★	急性出血性結膜炎	→	
流行性角結膜炎	↑	★	細菌性髄膜炎	↑	★
無菌性髄膜炎	→		マイコプラズマ肺炎	→	
クラミジア肺炎	→		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	↓	

【記号の説明】 前週からの推移： ↑：大幅な増加 →：増加 →：ほぼ増減なし ↓：減少 ↓：大幅な減少
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。(発生数が多いことを示すものではありません。)
 空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

今週の注目感染症

★風しん

●風しんとは

風しんは、発熱、発しん、リンパ節腫脹を特徴とするウイルスによる急性の発しん性感染症です。感染経路は飛沫感染で、ヒトからヒトに伝播します。特に妊婦が罹患すると、出生児に先天性風しん症候群（CRS）を発症することがあり、社会的に注目される疾患です。

●症状

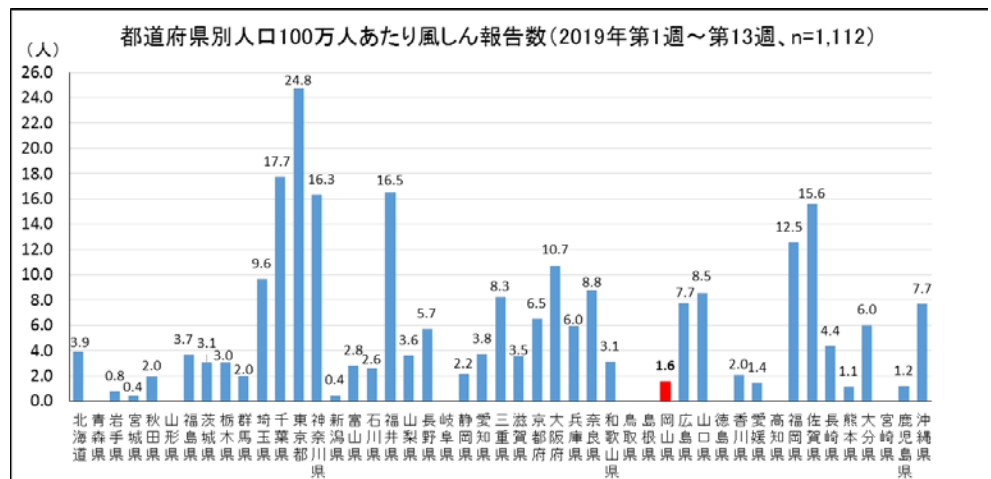
感染から14～21日後に発熱、発しん、リンパ節腫脹が出現します（発熱は風しん患者の約半数）。症状は不顕性感染（15～30%程度）から、重篤な合併症併発まで幅広く、特に成人で発症した場合、高熱や発しんが長く続いたり関節痛を認めるなど、小児より重症化することがあります。

●発生状況

・全国

2018年に全国的に流行しました（2018年の全国の風しん届出数：2,917名。直近3年間では年間93～163名）。人口100万人あたりの患者報告数は全国で22.9人となり、東京都が69.9人で最も多く、次いで千葉県61.5人、神奈川県44.0人、福岡県32.7人、埼玉県26.3人と続きました。中国・四国地方では、岡山県：15.1人、広島県：9.8人、山口県：15.7人、香川県：11.3人、愛媛県：5.1人などが報告されました。

患者は、男性が女性の4.3倍と多くを占めており、中でも抗体価が低いとされる、30代～50代の男性が中心となっていました（男性患者全体の約8割）。2019年に入ってから、全国では第1週から第13週の風しん累積患者報告数は1,112名となり、第12週の1,033名から79名増加しました。





©岡山県「ももち・うらうち」

風しんの予防について

岡山県で風しん患者が発生しています！

●風しんはワクチンで予防できます！

妊婦を守る観点から、妊娠を希望する女性や同居する家族で、過去に予防接種を受けていない方や風しんのり患が明らかでない方などは、予防接種についてご検討ください。

また、30代～50代の男性で、風しんのり患や予防接種が明らかでない方も、合わせてご検討ください。なお、医療機関によってはワクチンが不足している場合もありますので、事前に問い合わせることをお勧めします。

また、妊娠中の女性は予防接種を受けることができないため、特に流行地域においては、抗体を持たない、または抗体価の低い妊婦は、可能な限り人混みを避け、不要不急の外出を控えましょう。

☆厚生労働省は、風しんの追加的対策をすすめています☆

→[風しんの追加的対策について\(厚生労働省\)](#)

風しん抗体検査(無料)を受けましょう！

先天性風しん症候群の予防を目的として、岡山県では風しんの無料抗体検査を実施しています。

県内の抗体検査実施医療機関において、窓口で費用を負担することなく検査を受けることができます。

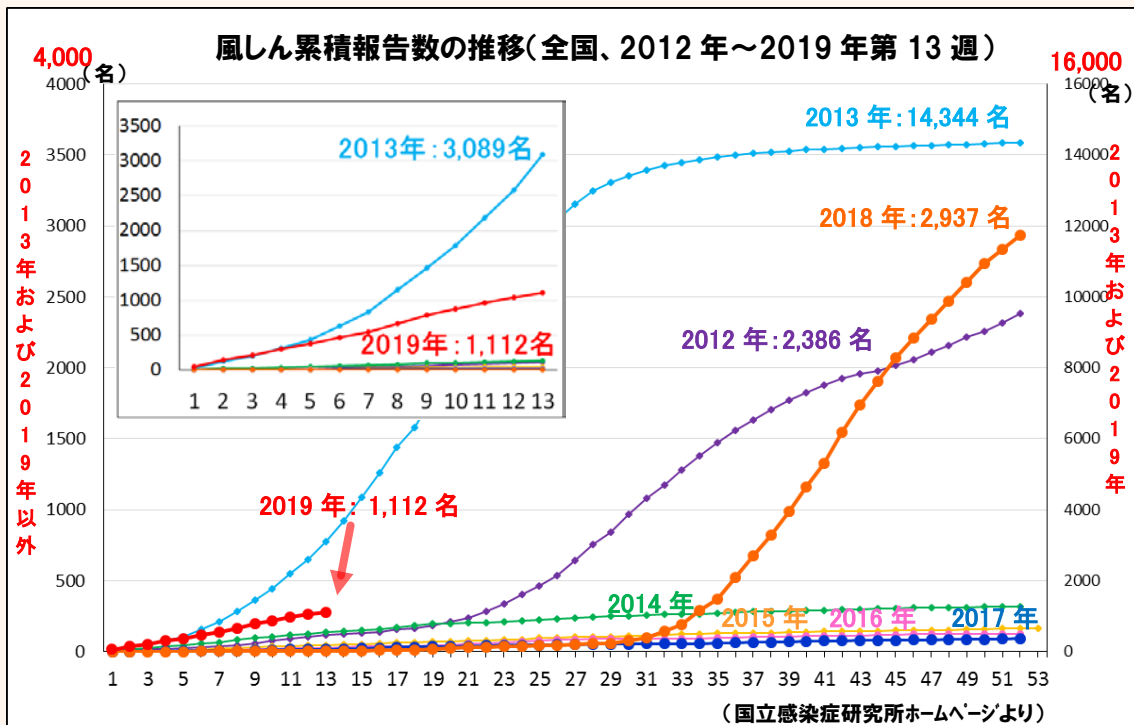
検査の詳細は、下記のホームページ

[風しんの無料抗体検査が受けられます\(岡山県健康推進課\)](#)

[風しんの無料抗体検査\(岡山市\)](#)

[風しん抗体検査について\(倉敷市\)](#)

をご覧ください。



詳細は・・・

[風疹急増に関する緊急情報\(2019年\)\(国立感染症研究所\)](#)

[風しんについて\(厚生労働省\)](#)

[風疹とは\(国立感染症研究所\)](#)

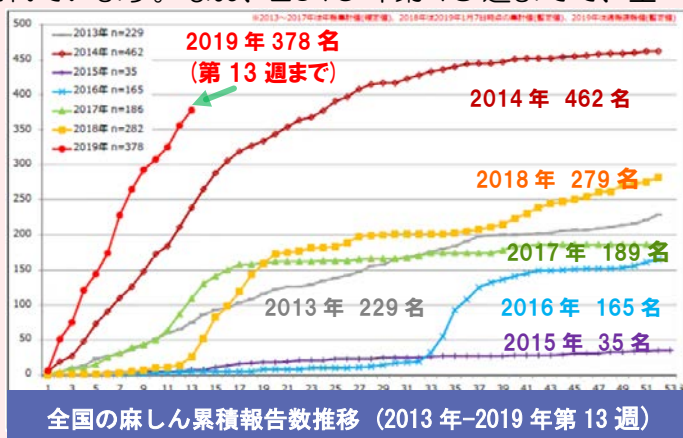
注意喚起情報～麻疹感染拡大中!

●全国的に麻疹（はしか）の感染患者が確認されています!

現在、大阪府（129名（4月7日まで））や東京都（44名（4月7日まで））などで感染者数が増加しており、全国的な感染拡大が懸念されています。なお、2019年第13週までで、全国では378名の患者が報告されました。

●「麻疹（はしか）」とは

麻疹ウイルスによる急性熱性発疹性疾患です。感染経路は、空気感染、飛沫感染、接触感染など様々で、その感染力は非常に強く、麻疹の免疫がない集団に1人の発症者がいたとすると、12～14人の人が感染するとされています（インフルエンザでは1～2人）。免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症します。手洗い、マスクのみでは予防はできません。



●症状

感染すると10～12日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れます。38℃前後の発熱が2～4日続いた後、高熱（多くは39.5℃以上）と発疹が出現します。通常は7～10日後には回復しますが、肺炎、中耳炎を合併しやすく、患者1,000人に1人の割合で脳炎を発症し、極めて重篤となることがあります（麻疹の二大死因は肺炎と脳炎です）。また、妊婦が感染すると、母体が重症化する恐れがあり、流産や早産を引き起こす可能性もあります。胎児に奇形を起こすことはないと言われていますが、発育異常や新生児麻疹（分娩時患）などをきたすおそれがあるとされています。なお、麻疹の感染が疑われる場合は、感染拡大防止のため、受診前に医療機関に連絡をし、その指示に従ってください。

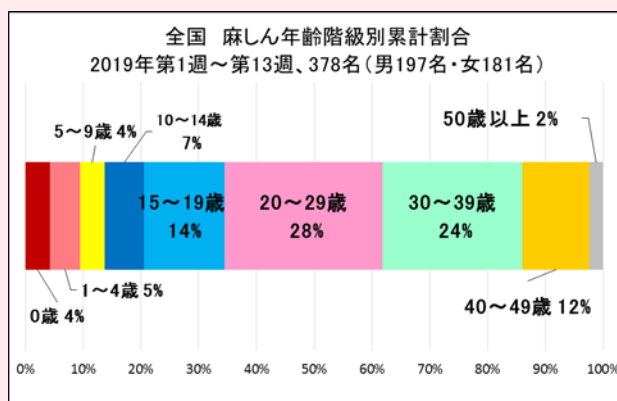
●麻疹はワクチンで予防できます!

麻疹の予防にはワクチンの接種が重要で、2回接種することでほぼ確実な免疫を得ることができるといわれています。ただし、1990年4月以前に生まれた方は、未接種か、1回接種の場合が多く、1回接種の場合でも免疫が低下している可能性があります。

麻疹感染が重症化しやすい小学校入学前までのお子さんのMRワクチンの接種状況について、

今一度ご確認ください。この年代では定期接種2回となっていますので、母子健康手帳を確認の上、接種が行われていない場合は、MRワクチンを接種してください。

また、これから妊娠を計画されている方や妊婦の周囲の方（特に28歳以上）は、ワクチン接種についてご検討ください。なお、医療機関によってはMRワクチンが不足している場合もありますので、事前に問い合わせることをお勧めします。



[麻疹について \(厚生労働省\)](#) [麻疹とは \(国立感染症研究所\)](#)

[「妊娠している方へ麻疹（はしか）の流行についてのご注意」 \(日本産婦人科医会\)](#)

医療関係者の方へ⇒ [「医療機関での麻疹対応ガイドライン \(第七版\)」 \(国立感染症研究所\)](#)

これから海外へ渡航される方へ

海外には、日本国内に存在しない感染症が多くあります。
海外に渡航される場合には、渡航先の感染症に対する予防対策が必要です。



©岡山県「ももっち・うらっち」

出発前の注意

- ・ 感染症に対する正しい知識と予防に関する対策を身に付けましょう。
- ・ 渡航先の感染症の発生状況に関する最新の情報や注意事項を確認しましょう。
- ・ これまで受けた予防接種について確認し、予防対策が不十分なものがあれば、予防接種を受けましょう。

旅行中の注意

- ・ 生水、氷、カットフルーツ、サラダなど、火が通っていないものを飲食することは避けましょう。
- ・ 肌の露出を少なくする、虫よけ剤（ディートやイカリジン含有）を使用するなど、蚊やダニに刺されないように注意しましょう。
- ・ 動物には、むやみに近づいたり、触らないようにしましょう。
（狂犬病、中東呼吸器症候群（MERS）や鳥インフルエンザなどのウイルスを
もっていることがあります。）
- ・ 帰宅後は、しっかり手洗いをしましょう。

帰国した後に

- ・ 帰国時に発熱や下痢などの症状がある方は、空港または海港の検疫所に相談してください。
- ・ 帰国時に症状がなくても、その後体調が悪くなったときは、早めに医療機関を受診し、その際は必ず渡航先も伝えてください。

海外へ渡航される方に向けた詳細な感染症情報が厚生労働省検疫所のホームページに掲載されています。

[海外へ渡航される皆様へ! \(厚生労働省検疫所 FORTH\)](#)

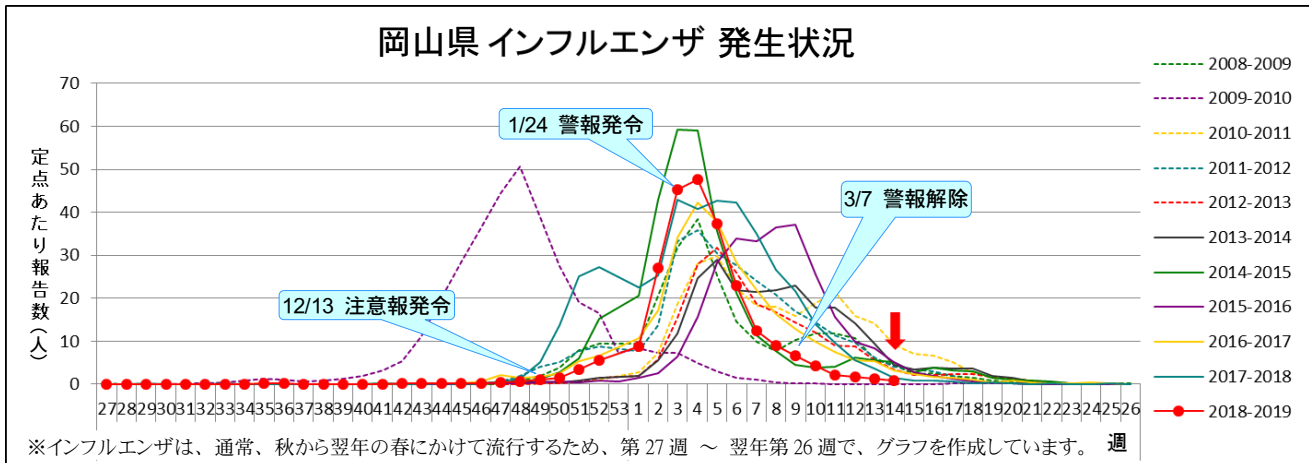
[海外感染症発生情報 \(厚生労働省検疫所 FORTH\)](#)

インフルエンザ週報 2019年 第14週 (4月1日～4月7日)

岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で79名(定点あたり0.94人)の報告がありました(84定点医療機関報告)。
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業は、ありませんでした。
- インフルエンザによる入院患者2名の報告がありました。



インフルエンザは、県全体で79名(定点あたり1.31→0.94人)の報告があり、前週から減少しました。岡山県は、ひきつづき『インフルエンザ注意報』を発令し、広く注意を呼びかけています。地域別では、備北地域(1.67人)、倉敷市(1.63人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。流行のピークは過ぎ、患者は減少してきていますが、再び患者が増加している地域もあります。ひきつづき感染予防に努めましょう。

◆インフルエンザは、まだ流行しています。 ひきつづき感染予防に努めましょう。

【 予 防 】

- ・ 帰宅後は手洗いをしましょう。アルコールを含んだ消毒剤で手を消毒するのも効果的です。
- ・ 室内では加湿器を使うなど、適度な湿度(50～60%)を保ちましょう。
- ・ 十分な睡眠をとり、バランスの良い食事を心がけて、抵抗力をつけましょう。
- ・ 特に高齢者や慢性疾患を持っている人などは、人混みや繁華街への外出を控えましょう。

【 かかったかな? という時には 】

- ・ 人混みや繁華街への外出を控え、無理をして学校や職場等へ行かないようにしましょう。
- ・ 周りの人にうつさないように、『[咳エチケット](#)』を心がけましょう。
- ・ 水分を十分にとり、安静にして休養をとりましょう。
- ・ 高熱が出る、呼吸が苦しいなど具合が悪ければ早めに医療機関を受診しましょう(受診時はマスクを着用してください)。
- ・ 小児、未成年者では、インフルエンザのり患により、急に走り出す等の異常行動を起こすおそれがありますので、ご注意ください。
- ・ 予防接種を受けた人でもかかることがありますので、油断せずに注意をしましょう(予防接種を受けた場合は、受けなかった場合と比べて、かかっても軽症であるとされています)。

1. 地域別発生状況
前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	79	▲	備 中	患者数	9	▲
	定点あたり	0.94			定点あたり	0.75	
岡山市	患者数	12	▲	備 北	患者数	10	▲
	定点あたり	0.55			定点あたり	1.67	
倉敷市	患者数	26	▶	真 庭	患者数	1	▲
	定点あたり	1.63			定点あたり	0.33	
備 前	患者数	14	▲	美 作	患者数	7	▲
	定点あたり	0.93			定点あたり	0.70	

【記号の説明】 前週からの推移 ▲：大幅な増加 ▲：増加 ▶：ほぼ増減なし ▼：大幅な減少 ▽：減少
 大幅：前週比 100%以上の増減 増加・減少：前週比 10～100%未満の増減

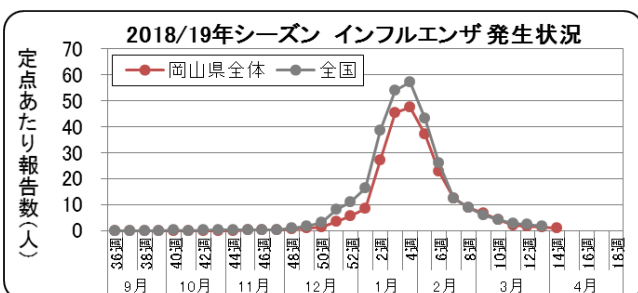
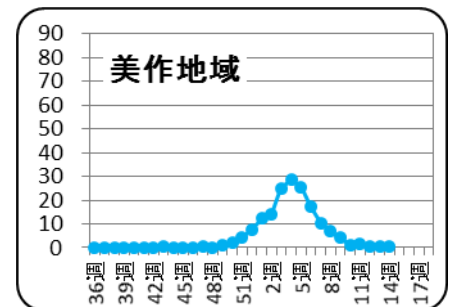
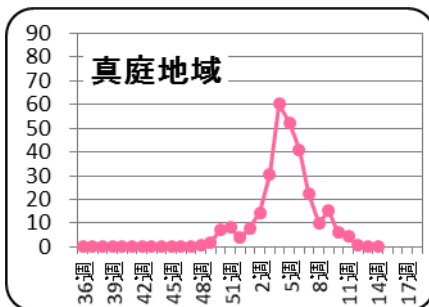
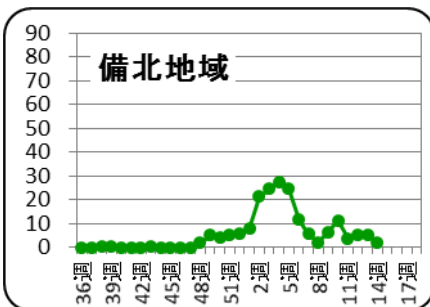
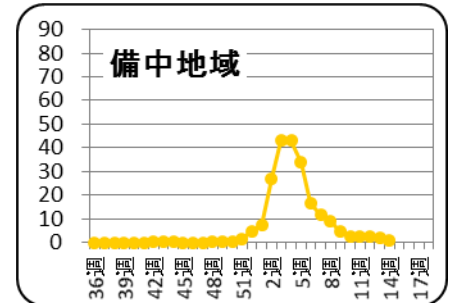
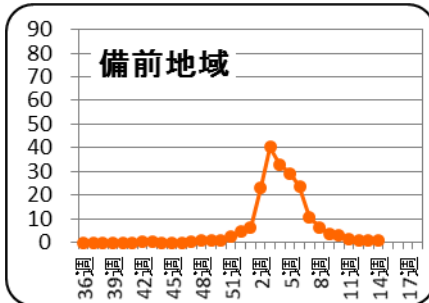
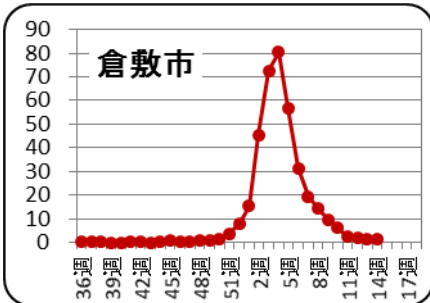
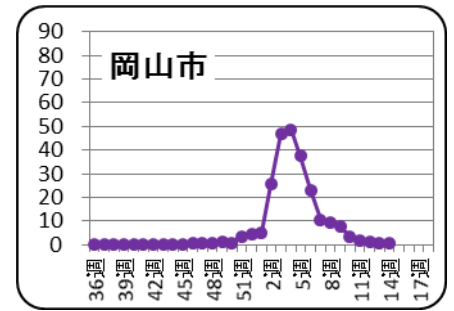
インフルエンザ感染症マップ



<インフルエンザ発生レベル 基準>

レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10以上 30未満

レベル1	報告なし
基準値	基準値
0< 10未満	0

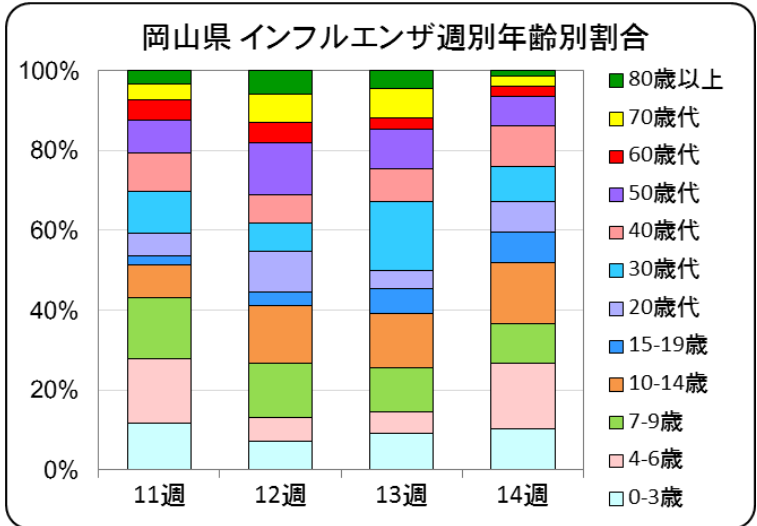
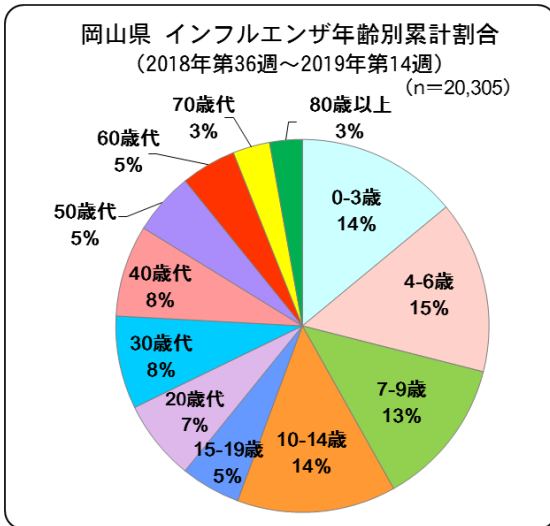


全国集計 2019 年第 13 週 (3/25～3/31) 速報値によると、全国の定点あたり報告数は 1.73 人となり、前週 (2.49 人) から減少しました。都道府県別では、秋田県 (6.50 人)、青森県 (5.32 人)、沖縄県 (4.78 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。1 県で前週の報告数より増加し、46 都道府県で前週の報告数より減少しました。

[インフルエンザの発生状況について \(厚生労働省\)](#)

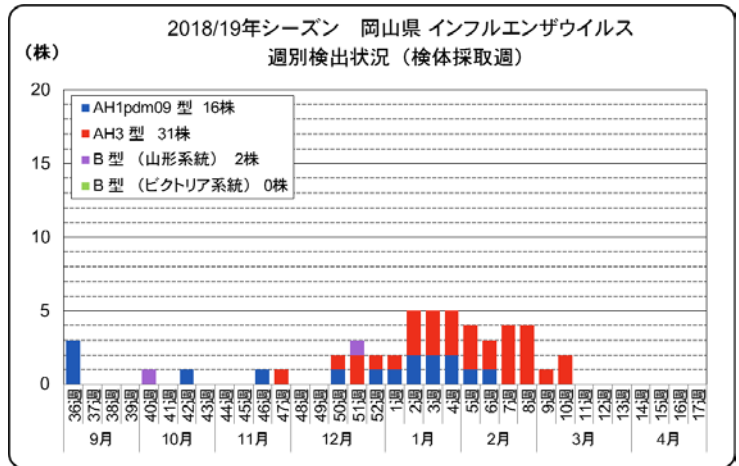
2. 年齢別発生状況

0歳から14歳までで約半数（56%）を占めていますが、広い年齢層で報告されています。

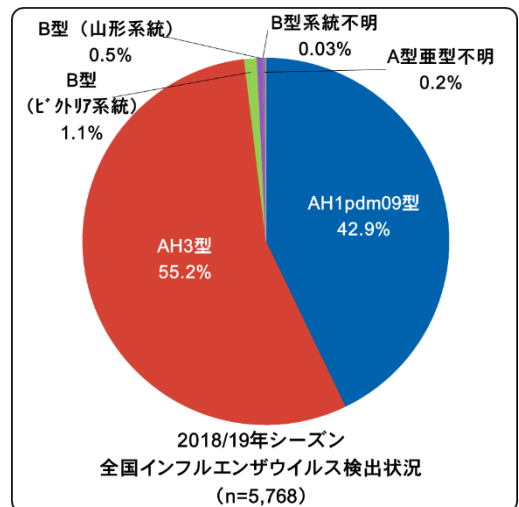
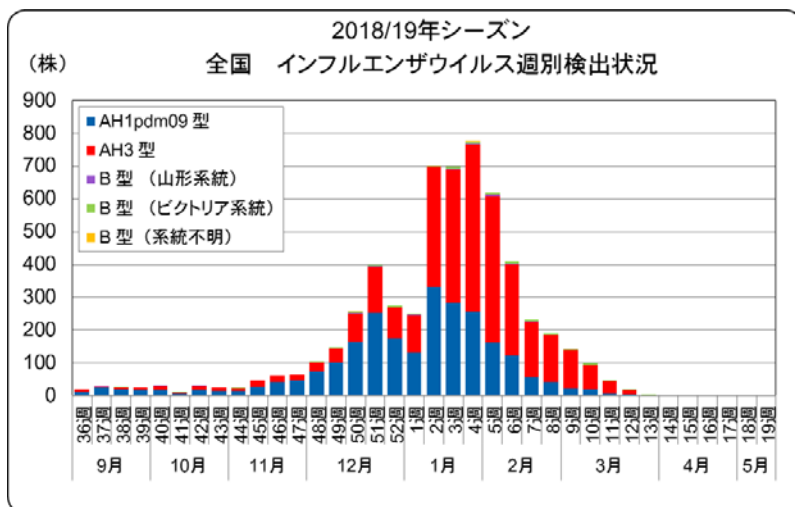


3. インフルエンザウイルス検出状況

2019年第14週、環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスはありませんでした。今シーズンこれまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは49株で、その内訳は、AH1pdm09型16株、AH3型31株、B型（山形系統）2株となっています。

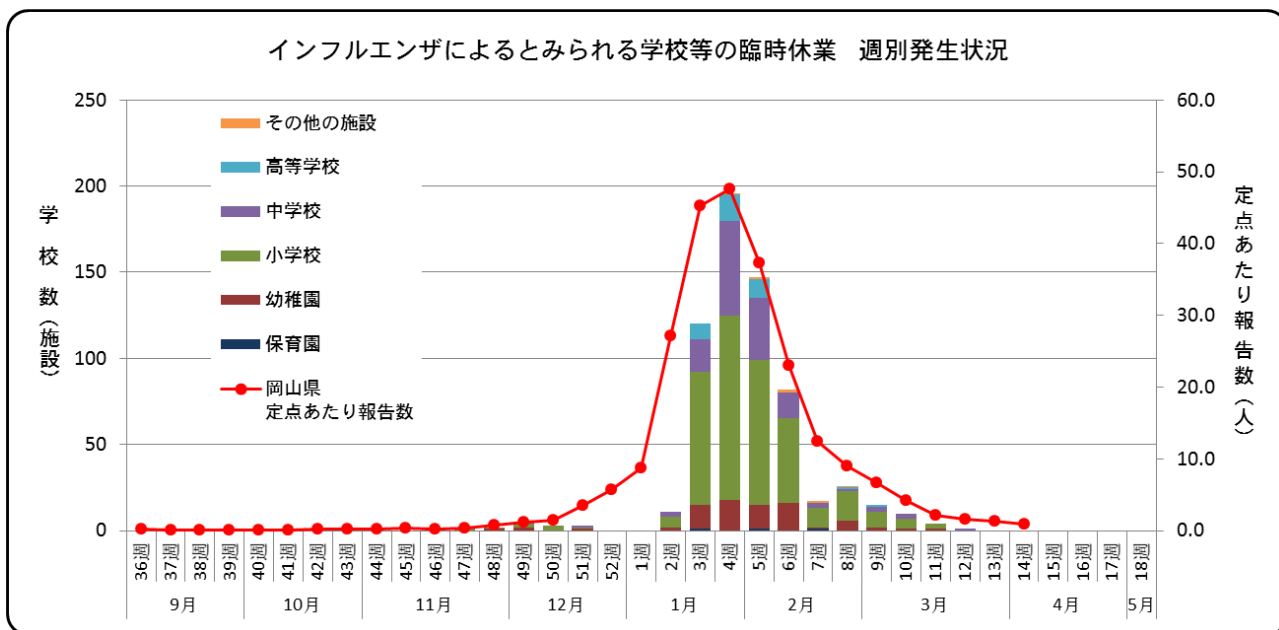


今シーズン、全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09型が2,472株、AH3型が3,186株、B型が97株（山形系統29株・ビクトリア系統66株・系統不明2株）、A型亜型不明13株となっています（4月9日現在）。
[インフルエンザウイルス分離・検出速報（国立感染症研究所）](#)



4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業は、ありませんでした。



1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	0	9232	0	7493	0	647	0	11	0	149	0	487	H30.9.26
岡山市	0	3959	0	3149	0	256	—	—	0	20	0	236	H30.9.26
倉敷市	0	2041	0	1758	0	141	0	1	0	22	0	118	H30.11.12
備前地域	0	767	0	657	0	62	0	1	0	25	0	36	H31.1.10
備中地域	0	1222	0	1034	0	105	0	2	0	38	0	65	H30.12.13
備北地域	0	140	0	96	0	13	0	1	0	9	0	3	H31.1.15
真庭地域	0	268	0	200	0	15	0	2	0	9	0	4	H31.1.17
美作地域	0	835	0	599	0	55	0	4	0	26	0	25	H30.12.6

2) 臨時休業施設数の内訳

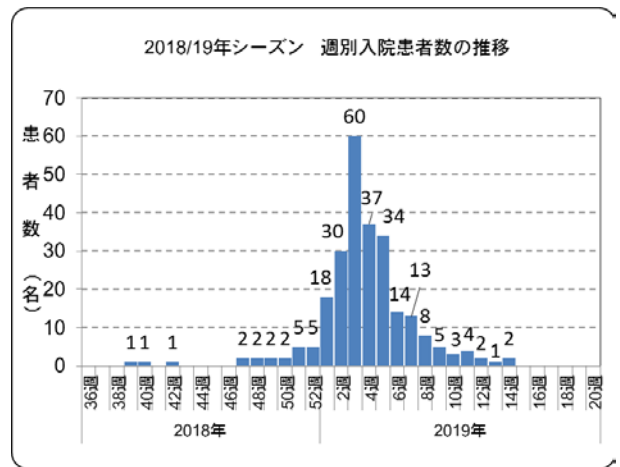
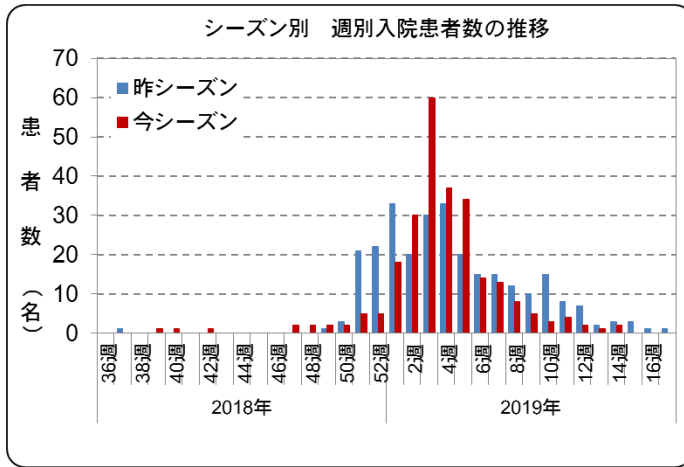
第 14 週 : 0 施設 累計 : 647 施設

	保育園		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	0	3	0	80	0	379	0	142	0	37	0	6

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、2名（1歳未満1名、1-4歳1名）の報告がありました。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので、注意が必要です。幼児ではまれに急性脳症を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関を受診しましょう。



【第 14 週 入院患者報告数】

年齢	1歳未満	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	計*
入院患者数	1	1											2
ICU入室*													
人工呼吸器の利用*													
頭部CT検査(予定含)*													
頭部MRI検査(予定含)*													
脳波検査(予定含)*													
いずれにも該当せず	1	1											2

* 重複あり

【2018年9月3日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	計
入院患者数	9	27	14	4	1	3	3	4	6	23	52	106	252
ICU入室*		1						1		1	3	2	8
人工呼吸器の利用*		2						1		1	1	8	13
頭部CT検査(予定含)*		4	1			1				4	5	8	23
頭部MRI検査(予定含)*		5	3	1	1			1			4	1	16
脳波検査(予定含)*			1										1
いずれにも該当せず	9	19	9	3		2	3	2	6	18	43	92	206

* 重複あり

[インフルエンザ Q&A \(厚生労働省\)](#)

[平成 30 年度 今冬のインフルエンザ総合対策について \(厚生労働省\)](#)

[インフルエンザ 関連情報 2018/2019 シーズン インフルエンザワクチン株 \(国立感染症研究所\)](#)

保健所別報告患者数 2019年 14週(定点把握)

(2019/04/01～2019/04/07)

2019年4月11日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	79	0.94	12	0.55	26	1.63	14	0.93	9	0.75	10	1.67	1	0.33	7	0.70
RSウイルス感染症	10	0.19	2	0.14	3	0.27	-	-	2	0.29	-	-	-	-	3	0.50
咽頭結膜熱	16	0.30	3	0.21	-	-	-	-	1	0.14	-	-	1	0.50	11	1.83
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	78	1.44	16	1.14	28	2.55	4	0.40	7	1.00	8	2.00	3	1.50	12	2.00
感染性胃腸炎	290	5.37	108	7.71	65	5.91	50	5.00	4	0.57	23	5.75	8	4.00	32	5.33
水痘	15	0.28	3	0.21	5	0.45	5	0.50	-	-	-	-	-	-	2	0.33
手足口病	3	0.06	1	0.07	-	-	-	-	1	0.14	1	0.25	-	-	-	-
伝染性紅斑	12	0.22	8	0.57	-	-	-	-	3	0.43	-	-	-	-	1	0.17
突発性発疹	9	0.17	8	0.57	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
ヘルパンギーナ	2	0.04	1	0.07	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	5	0.09	3	0.21	-	-	1	0.10	-	-	1	0.25	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	0.17	-	-	-	-	-	-	2	2.00	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	1	0.20	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2019年 14週(発生レベル設定疾患)

(2019/04/01～2019/04/07)

2019年4月11日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	79	0.94	12	0.55	26	1.63	14	0.93	9	0.75	10	1.67	1	0.33	7	0.70
咽頭結膜熱	16	0.30	3	0.21	-	-	-	-	1	0.14	-	-	1	0.50	11	1.83
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	78	1.44	16	1.14	28	2.55	4	0.40	7	1.00	8	2.00	3	1.50	12	2.00
感染性胃腸炎	290	5.37	108	7.71	65	5.91	50	5.00	4	0.57	23	5.75	8	4.00	32	5.33
水痘	15	0.28	3	0.21	5	0.45	5	0.50	-	-	-	-	-	-	2	0.33
手足口病	3	0.06	1	0.07	-	-	-	-	1	0.14	1	0.25	-	-	-	-
伝染性紅斑	12	0.22	8	0.57	-	-	-	-	3	0.43	-	-	-	-	1	0.17
ヘルパンギーナ	2	0.04	1	0.07	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	5	0.09	3	0.21	-	-	1	0.10	-	-	1	0.25	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	0.17	-	-	-	-	-	-	2	2.00	-	-	-	-	-	-

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2019年 第14週 2019/04/01～2019/04/07)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
インフルエンザ	79	2	-	-	4	2	2	5	6	4	2	2	12	6	6	7	8	6	2	2	1

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	10	4	2	-	3	-	-	-	-	-	-	-	1	-	
咽頭結膜熱	16	-	2	4	6	-	-	-	-	-	1	2	-	1	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	78	-	-	3	4	9	13	8	9	1	8	5	6	2	10
感染性胃腸炎	290	2	19	34	20	27	24	29	17	21	7	12	35	6	37
水痘	15	-	-	1	2	-	2	4	1	3	1	-	1	-	-
手足口病	3	-	1	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	
伝染性紅斑	12	-	-	1	3	-	3	1	1	-	3	-	-	-	
突発性発疹	9	-	4	3	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヘルパンギーナ	2	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性耳下腺炎	5	-	-	-	1	1	-	-	1	-	1	1	-	-	

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

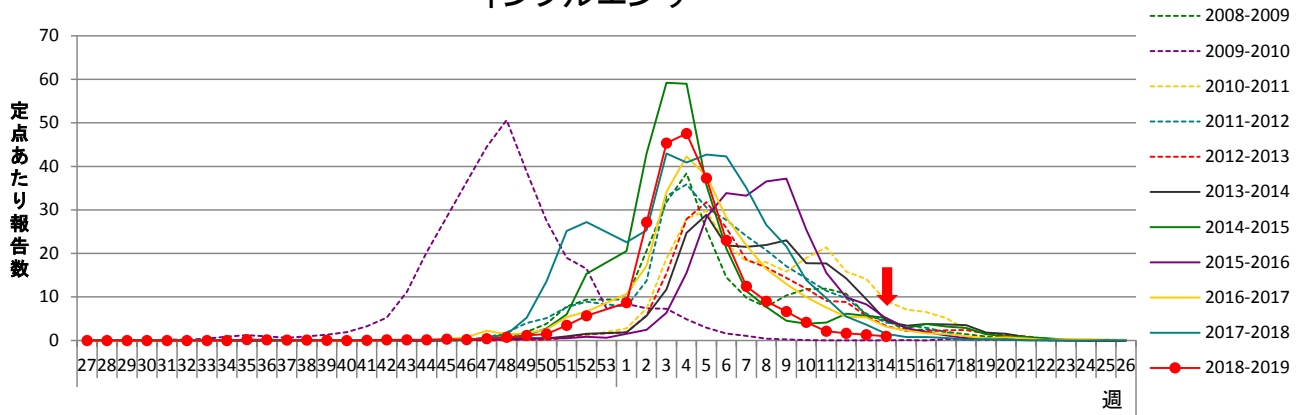
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

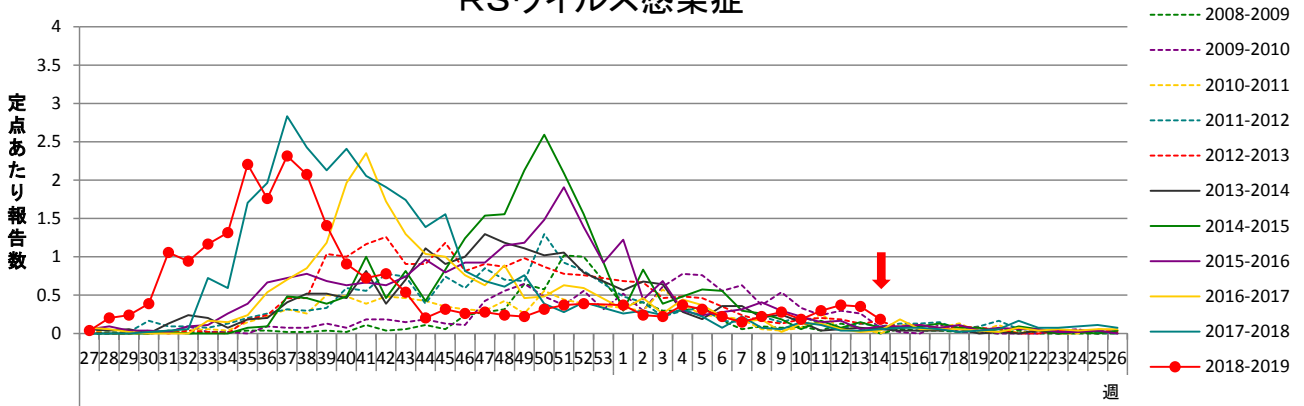
2019年 14週

分類	疾病名	2019		2018	疾病名	2019			疾病名	2019		2018
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	2	91	337	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	16	腸管出血性大腸菌感染症	-	4	70
	腸チフス	-	-	1	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	-	1	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	1	5
	エキノкокクス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	-	2
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	-	2
	デング熱	-	1	-	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-	日本紅斑熱	-	-	5
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ボツリヌス症	-	1	1	マラリア	-	-	-
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	11	83
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-
	五類	アメーバ赤痢	-	2	15	ウイルス性肝炎	-	1	5	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	-	9
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)		-	1	3	急性脳炎	-	4	6	クリプトスポリジウム症	-	-	-
クロイツフェルト・ヤコブ病		-	-	2	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	1	14	後天性免疫不全症候群	-	4	18
ジアルジア症		-	-	1	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	1	2	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	1
侵襲性肺炎球菌感染症		-	13	45	水痘(入院例に限る。)	-	2	3	先天性風しん症候群	-	-	-
梅毒		-	33	160	播種性クリプトコックス症	-	-	2	破傷風	-	-	2
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	2	-	百日咳	8	68	187
風しん		-	3	29	麻しん	-	-	-	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-

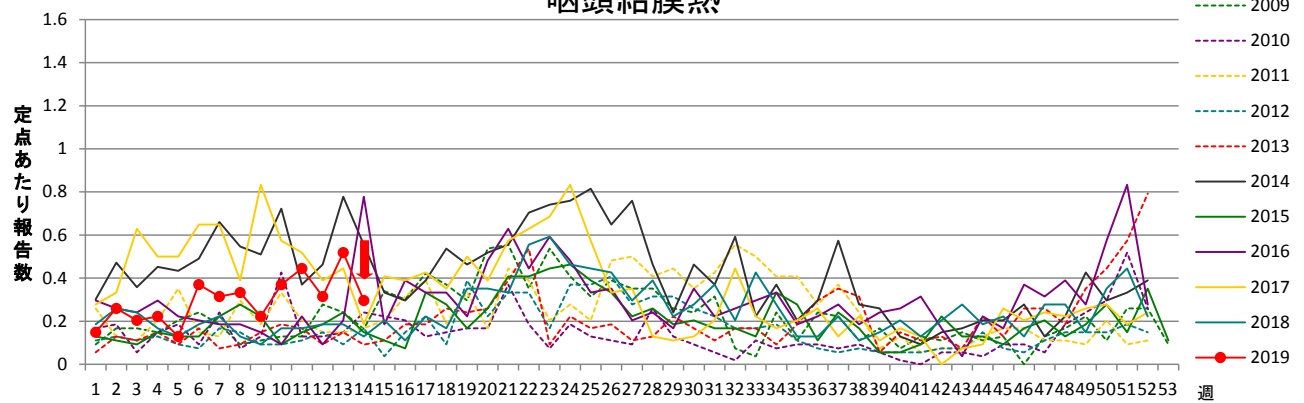
インフルエンザ



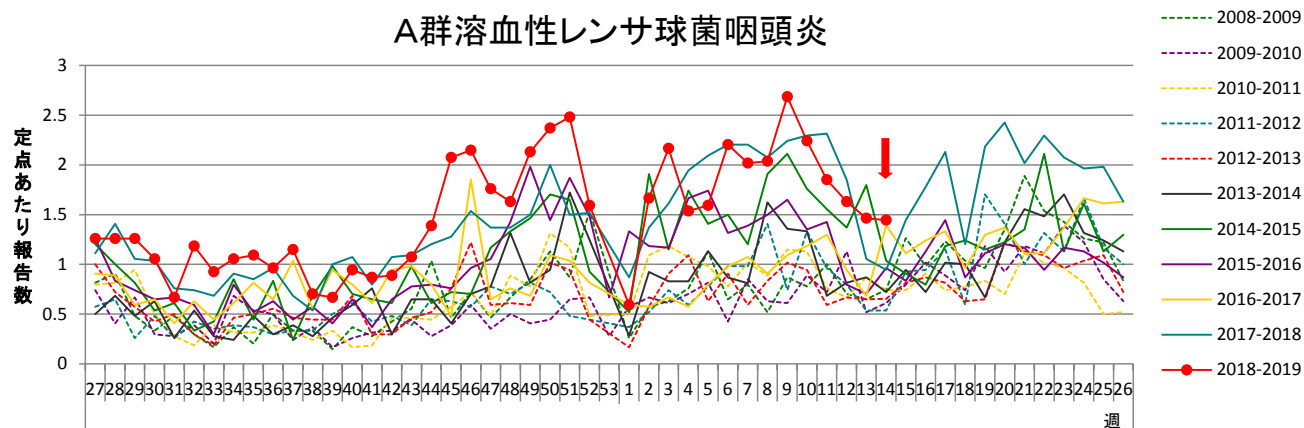
RSウイルス感染症



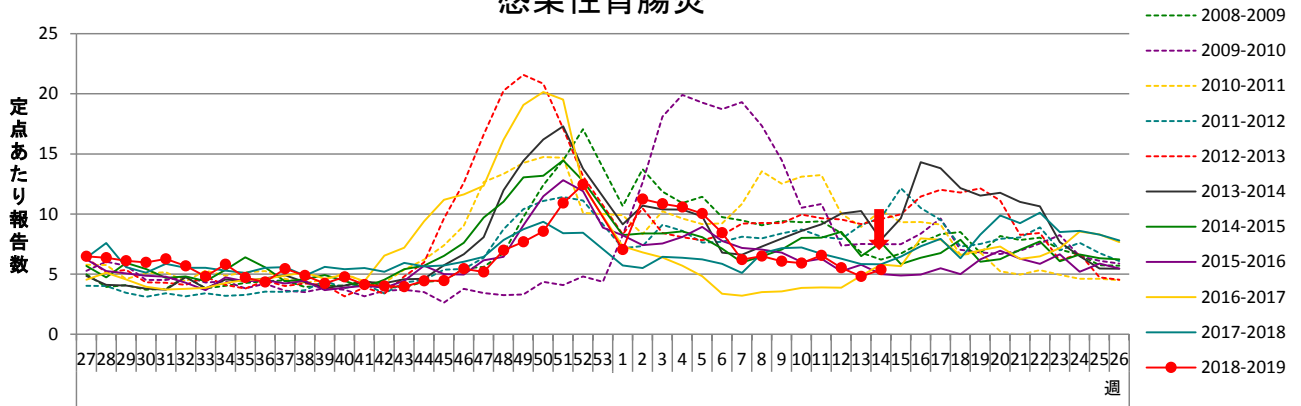
咽頭結膜熱



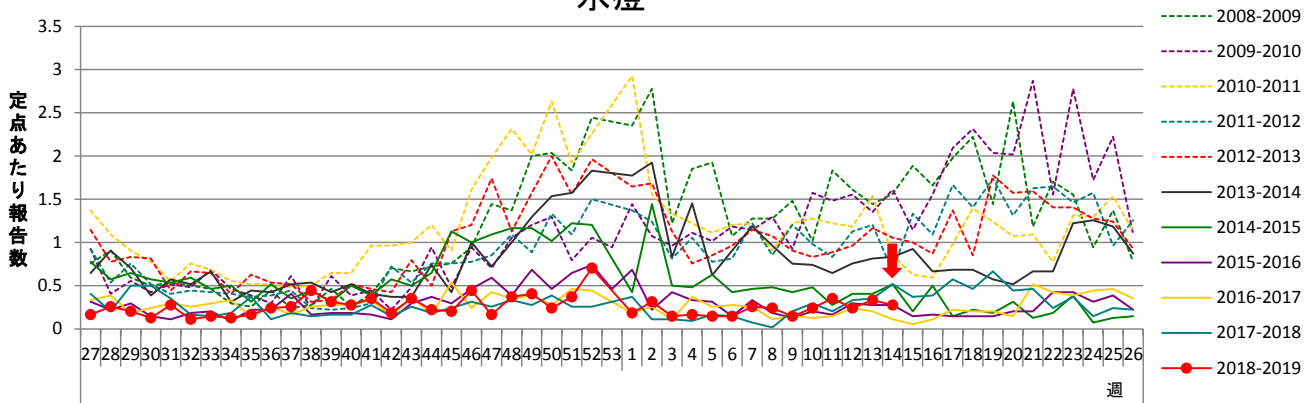
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



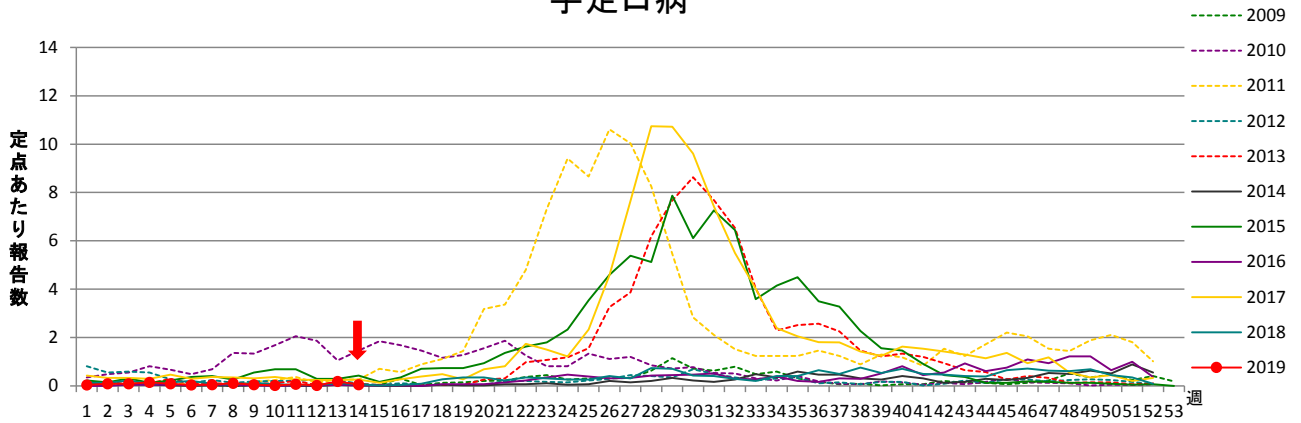
感染性胃腸炎



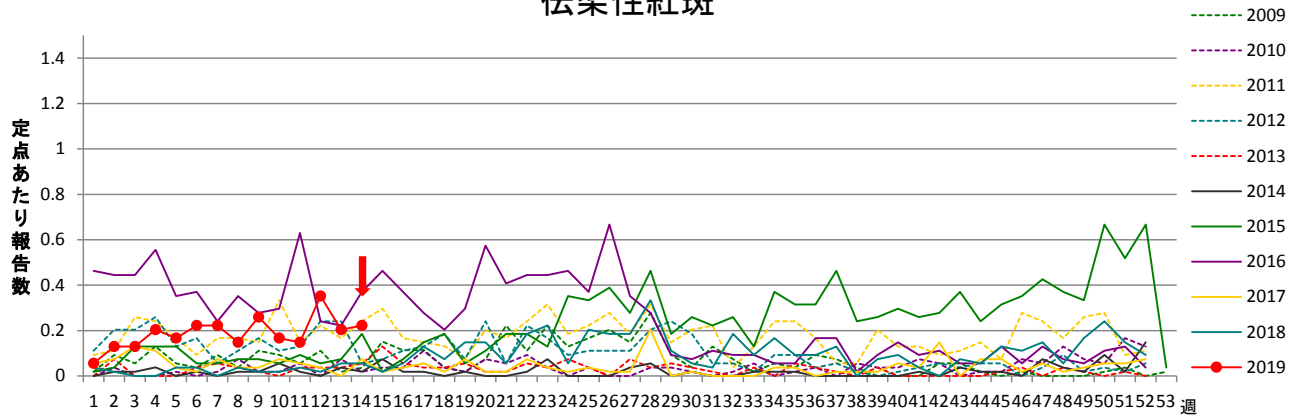
水痘



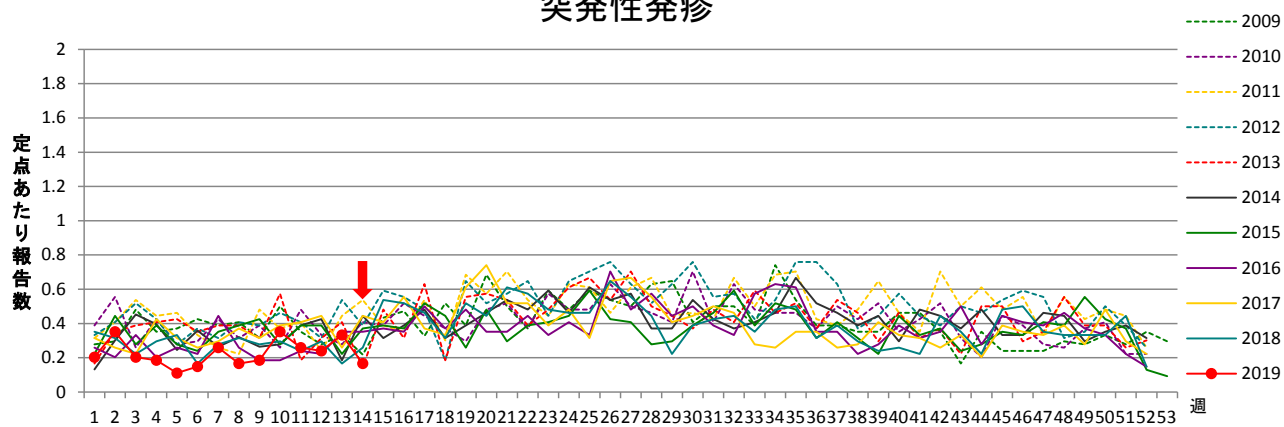
手足口病



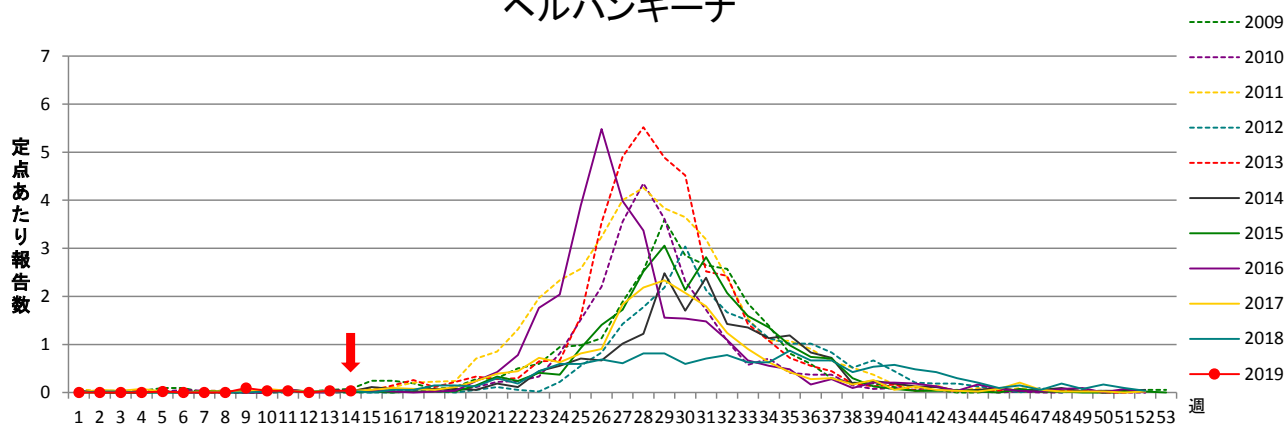
伝染性紅斑



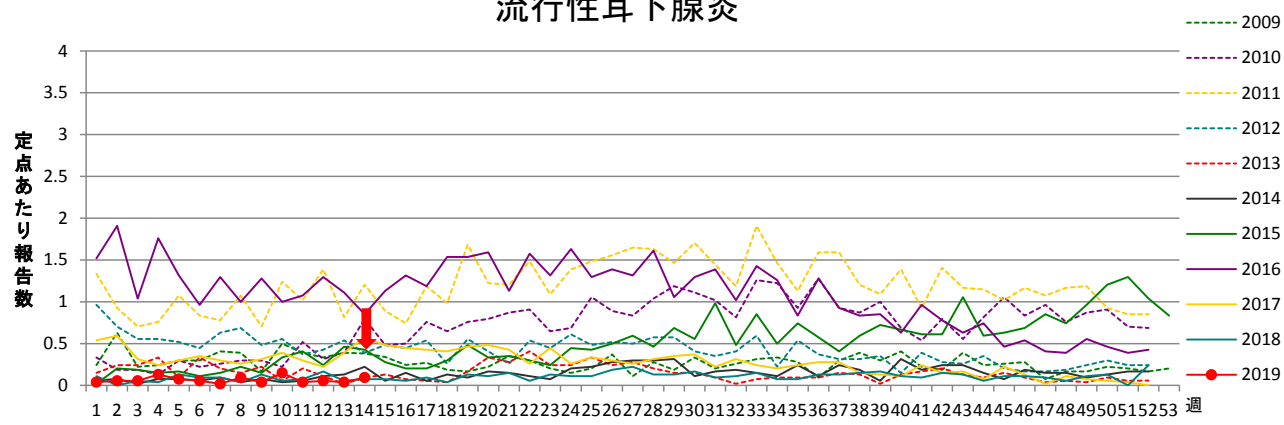
突発性発疹



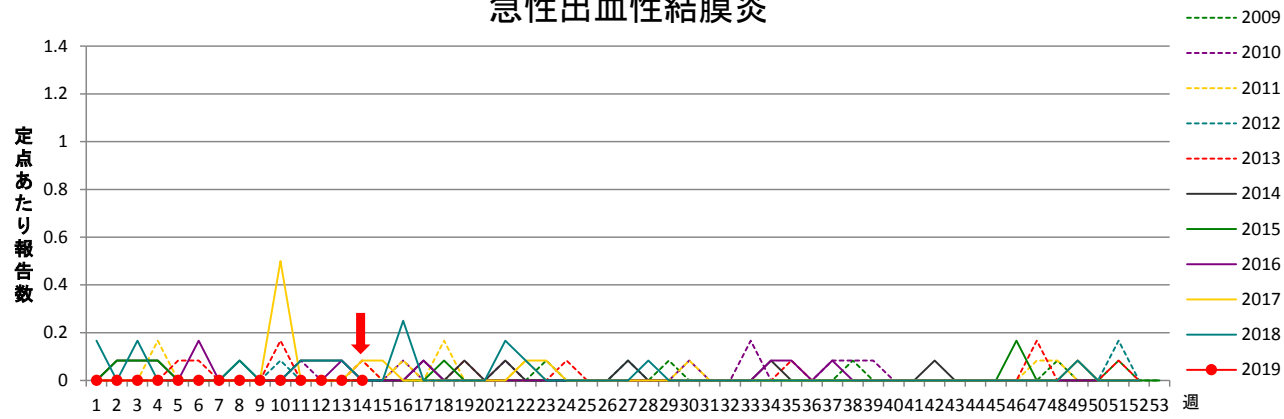
ヘルパンギーナ



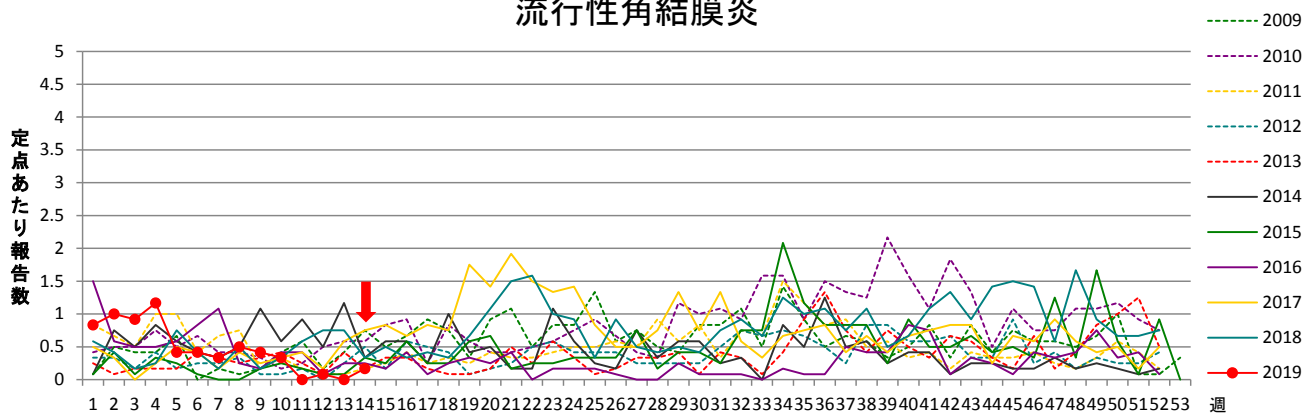
流行性耳下腺炎



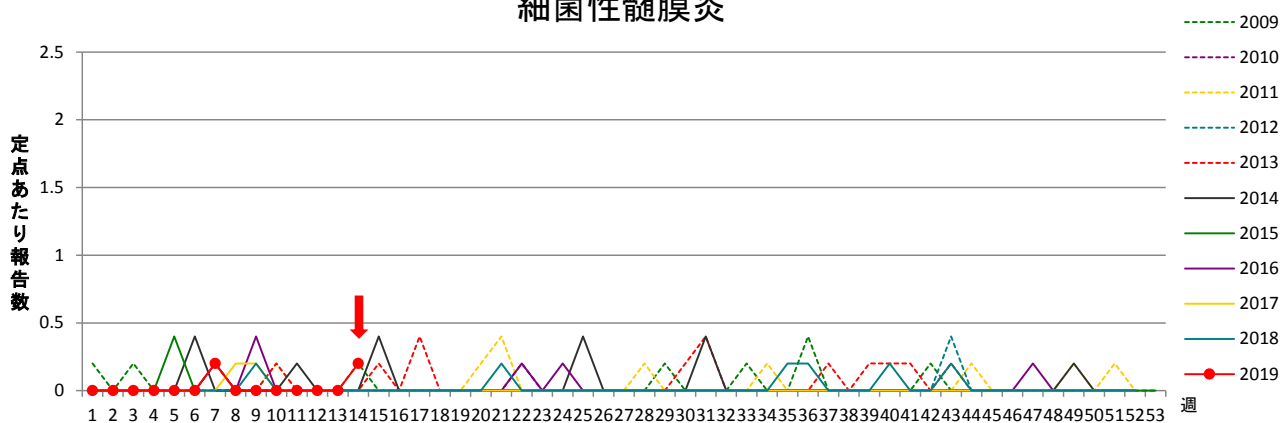
急性出血性結膜炎



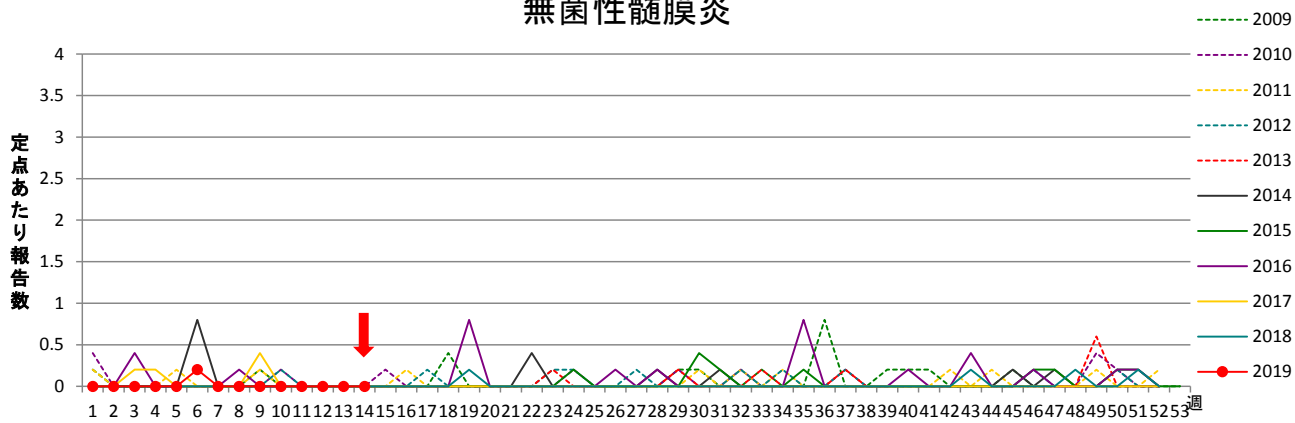
流行性角結膜炎



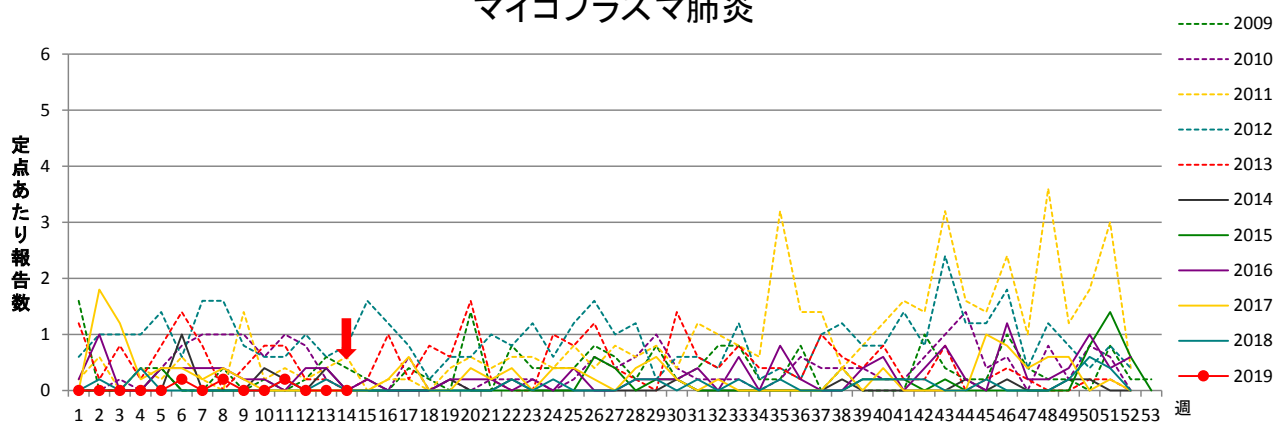
細菌性髄膜炎



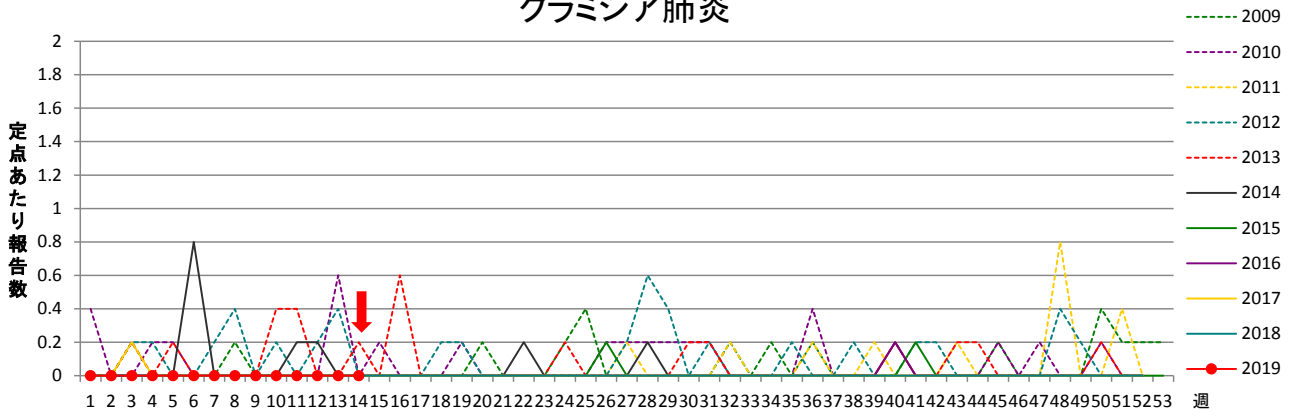
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

